

中国・長江三角洲に於ける工業開発と日系企業

— 無錫，江陰，宜興の事例から —

大石 悠 二*

緒 言

2008年の北京五輪競技（オリンピック）大会、2010年の上海世界博覧会（万博）の開催を数年後に控えて、中国の経済はめざましい発展を遂げている。これらの国家的事業と並行する形で、第十一次経済計画（2006年～2010年）は、期間中に1人当たりの国内総生産を倍増するよう目指している。中国の高度経済成長は、21世紀の最初の5年間に年平均8%台の高率を達成したが、さらに今後も持続するだろう。

上海は大河・長江（揚子江）の河口に位置して、後背地に豊かな江南平野を擁している。長江三角洲の経済圏は上海の市域を超えて带状に伸び、約300 km 上流の古都・南京にまで至る。いくつもの中堅都市が外延部に数珠上に連なり、有機的に関連しあって、一大工業圏を形成した。とりわけ江蘇省の無錫（ウーシー）、その衛星都市の江陰（チャンイン）、宜興（イーシン）には、多数の日本企業が立地している。

本論の目的は、中国の改革開放体制の下で無錫が工業化する過程を探り、併せて日系企業の集積状況を考察することである。

第一章 「傾力打造液晶谷」

2005年、日本企業のシャープは、無錫市東南

部の工業団地（無錫新区＝後述）に日中合弁の新工場を増設した。同社は既にいくつもの工場を同団地内で操業しているが、情報通信技術時代の高まる需要に即応して、携帯電話用の液晶表示装置（ディスプレイ）の増産に踏み切ったのである。

無錫新区ではシャープ以外にも、住友化学、太陽電器、ソニー、ニコンの日系企業が液晶関連の製品を生産し、これに中国、香港、韓国の会社も加わっている。そこで米国のシリコン・ヴァリーをもじって、新区はクリスタル・ヴァリーと呼ばれる。

無錫市の資料によると、シャープの合弁会社・無錫夏普電子元器件有限公司が竜の頭となって一大液晶産業群を形成し、その年間売り上げは既に150億元に達して、2008年までに700億元を超える見込みだ。傾力打造液晶谷（全力を上げてクリスタル・ヴァリーを建設しよう）が、いまや開発関係者の合言葉になっている。

桑田変じて滄海となる——変遷の激しいことの譬えである。僅か四半世紀の間に、中国は大変貌を遂げた。作家の司馬遼太郎は改革開放の前に中国を旅した紀行文の中で、江南の風光を讃えた。その風景は今も変わらないが、突然、水田や養魚地の向こうに中高層の集合住宅や工場群が出現する。高速道路が野を貫いて伸び、市街地の入り口で巨大な円弧を描いている。

無錫は長江三角州のほぼ中央に位置し、上海から西へ約130 km、広大な淡水湖の太湖（タイフー）に臨む。面積は4,788平方 km、人口442万人を擁する。遙かな昔、この地は錫の産地だった。この金属は青銅の原料として、武器や祭祀器の製造

2005年11月29日受付

* 江戸川大学 社会学部経営社会学科教授

キーワード：長江三角洲・無錫

に欠かせなかったが、早くも漢代には掘り尽くされて無くなってしまった。これが地名の由来だという。それから約二千年の星霜を経て、古代の廢鉞は国際的工業都市に発展し、世界の30カ国から数多くの外資系企業が立地している。

上海から南京行きの特別急行列車に乗ると、蘇州（日本人観光客には寒山寺の所在地として馴染み深い）経由で、無錫には1時間20分で到達する。将来、上海～北京間的高速列車（新幹線）が開通すれば、僅か30分の時間距離である。バスや乗用車なら、高速道路で2時間程度、ただし渋滞が酷い場合には、相当の覚悟をせねばならない。

無錫は古代から交通の要衝で、長江、太湖、運河を利用した水運の便に恵まれた。現代でも長江は中国本土の交通の大動脈として、万トン級の貨物船が往来する。太湖と運河では、昔ながらの運搬船が建設資材などの高張る重量物を運ぶ。さらに鉄道と高速道路が市内で交差し、新区に隣接して空港がある。まだ国内専用だが、近いうちに日本と韓国へ国際線が開設される。

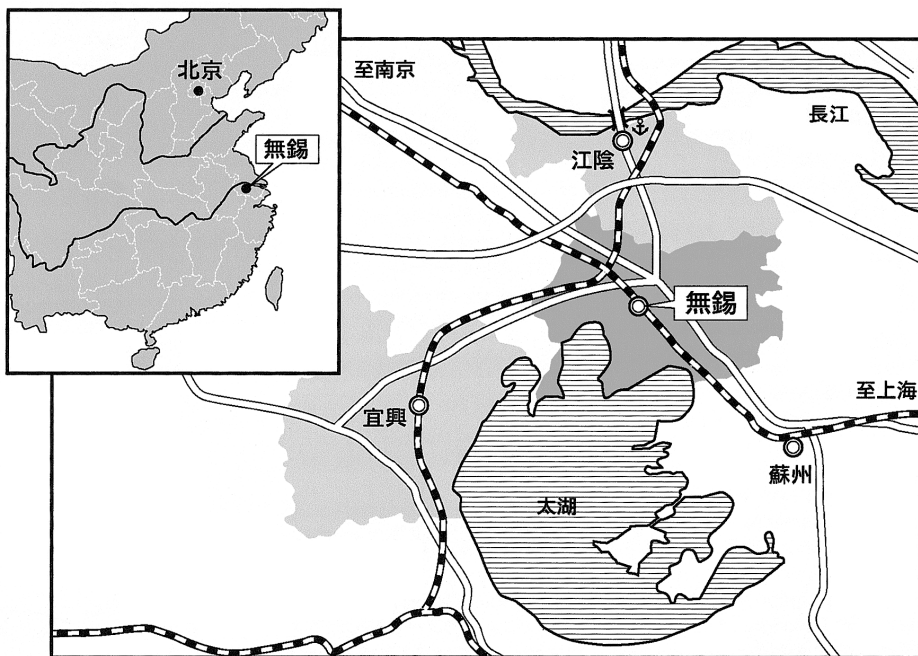
ここで中国の行政制度を説明しなければなるま

い。中国全土は22省、4直轄市（首都の北京、天津、重慶、上海）、5自治区、2特別行政区に分かれている。日本とは異なり、市は下部に県を置き、そこには鎮（町）や郷（村）がある。県は田園地帯であるが、人口増大で市街地化するに連れて、市に衣替える。

無錫は江蘇省にあり、江陰と宜興の2県を管轄下に置いていたが、両県とも1987年と1988年に市に昇格した。それぞれに人民政府（市役所）があるが、同時に無錫市の下に入っている。東京都の傘下に、三鷹や武蔵野などの市があるのと比較すれば、この地方行政制度は理解しやすいだろう。

これら3市の関係は、しばしば「一体両翼」と称される。無錫が胴体で、江陰が北翼、宜興が南翼に当たる。本稿では特に記さない限り、無錫とは県級市の江陰と宜興とを含んでいる。

桜花満開、日資雲集——無錫新区管理委員会発行の『無錫新区』の表紙には、このように太字で印刷してある。実際、2004年末の数字で、無錫に進出している日系企業は994社に上り、その投資額は31億ドルに達した。



無錫周辺地図

(描画＝岩井デザイン)

無錫新区は旧市街地の南東にあり、ハイテク産業の集積した工業団地である。1992年、国家級の高新技術産業開発区として発足した。同時にそれは無錫市を構成する行政区の一つである。居住人口20万人を擁し、整然と区割りされた地区に、工場と住宅が並存している。2005年10月、ここに東京大学は日中産学提携の拠点というべき無錫代表所を設置した。

無錫市対外貿易経済合作局発行の『魅力無錫』は、英文経済誌『フォーチュン』を引用して、無錫の産業の国際化を例証している。それによると、

多国籍企業の上位500社の内、実に1割以上の58社が無錫に進出している。日本は28社で第1位を占め、米国は7社、フランスは6社、ドイツは5社、イギリス、スイス、オランダ、中国が各2社、スウェーデン、ノルウェー、韓国は各1社となっている。このように世界的大企業を例にとっても、無錫全体で日本の存在感は十分に大きい。新区ではなおさらである。2004年12月までに、投資額200万ドル以上の日系企業は100社を超えた。液晶以外にも、実に多種多様な業種の会社が立地している。

無錫新区に立地の主要日系企業

(上段は日本企業名、下段は合弁、または独資の中国現地法人名)

ソニー (投資総額 2億4,270万米ドル)

索尼電子(無錫)有限公司【製品 電池, 液晶表示装置, デジタルカメラ】

松下電器産業 松下電池工業 (1億3,679万ドル)

無錫松下電池有限公司【電池, 充電器】

松下電器産業 松下冷機 (5,960万ドル)

無錫松下冷機有限公司 無錫松下冷機圧縮機有限公司【家庭用冷蔵庫】

住友化学 (2億1,900万ドル)

住化電子材料科技(無錫)有限公司【液晶表示装置(ディスプレイ)用偏光フィルム】

CMK (1億4,100万ドル)

希門凱電子(無錫)有限公司【プリンター基板】

コニカミノルタ (9,000万ドル)

柯尼卡美能達商用科技(無錫)有限公司【情報通信機器用多層プリント基板】

村田製作所 (8,700万ドル)

無錫村田電子有限公司【セラミックフィルター, コンデンサー】

ケミコン (7,600万ドル)

貴弥功(無錫)有限公司【電解コンデンサー】

シャープ (7,062万ドル)

無錫夏晋電子元器有限公司【液晶ディスプレイ, チューナー, ピックアップ】

夏晋科技(無錫)有限公司【液晶ディスプレイ】

東芝 (6,713万ドル)

東芝半導体(無錫)有限公司【民生用集積回路】

日立マクセル (6,500万ドル)

無錫日立麦克賽爾有限公司【電池, フロッピーディスク】

ニコン (6,000万ドル)

尼康光学儀機器(中国)有限公司

アルプス電気 (5,600万ドル)

無錫阿爾卑斯電子有限公司【電子スイッチ, マイクロスイッチ】

- ニチコン (4,998 万ドル)
 尼吉康電子（無錫）有限公司【アルミ電解コンデンサー】
- 住友電気工業 (4,950 万ドル)
 住友電工（無錫）有限公司【エナメル線】
 住電粉末冶金（無錫）有限公司【焼結金属製品】
- 宇部興産 (2,814 万ドル)
 宇部電子（無錫）有限公司【セラミックフィルター】
 宇部日東化成（無錫）有限公司【新型建築材料】
 宇部機能化学品（無錫）有限公司【二次電池用電解液】
- 東洋通信機 (2,500 万ドル)
 東洋通信機（無錫）有限公司【水晶発振機，新型電子部品】
- フジクラ (520 万ドル)
 藤倉電子（無錫）有限公司【ハードディスクドライブ用機構部品】
- ブリヂストン (9,900 万ドル)
 普利斯通輪胎（無錫）有限公司【ラジアルタイヤ】
- カルソニックカンセイ (1 億 1,700 万ドル)
 家奈可科技（無錫）有限公司【自動車用エアコン部品，自動車用メーター】
 家奈可汽車電子（無錫）有限公司【自動車用ラジエーター，空調ユニット】
- 光洋精工 (3,750 万ドル)
 光洋汽車配件（無錫）有限公司【ベアリング】
- 東海理化学電機 (2,000 万ドル)
 無錫理昌科技有限公司【自動車用安全ベルト，乳幼児用座席】
- THK (9,000 万ドル)
 帝業技凱（無錫）精密工業有限公司【精密 LM ガイドと関連部品】
- ヤンマー農機 (2,998 万ドル)
 洋馬農機（中国）有限公司【刈り取り脱穀機械，田植え機械】
- 日新電機 (4,427 万ドル)
 日新電機（無錫）有限公司【コンデンサー】
 日進（無錫）機電有限公司【電子専門用設備と部品】
- CKD (2,980 万ドル)
 喜開理（中国）有限公司【空気圧機器，制御バルブ，光電スイッチ】
- YKK (2,960 万ドル)
 無錫威可楷発斯寧科技有限公司【金属製スナップファスナー，金属部品，樹脂部品】
- パラマウントベッド (2,300 万ドル)
 八楽夢床業（中国）有限公司【医療用ベッド，看護用ベッド】
- 富士電機 (1,300 万ドル)
 無錫富士通用電気駆動控制有限公司【低騒音高性能インバーター】
- 古河電気工業 (8,400 万ドル)
 古河金属（無錫）有限公司【銅合金材料】
- ユニチカ (5,500 万ドル)
 尤尼吉可高分子科技（中国）有限公司【高分子ナイロンフィルム，シート】

日東紡績 (3,558 万ドル)

日東紡 (中国) 有限公司【芯地の染色加工】

三協化学 (2,500 万ドル)

無錫新協化学有限公司【染料の添加剤と中間体, 医薬品・電子材料用添加剤】

京セラケミカル (1,301 万ドル)

京瓷化学 (無錫) 有限公司【エポキシシール】

大倉工業 (1,230 万ドル)

無錫大倉環宇包装材料有限公司【ポリプロピリン熱収縮フィルム】

積水化学工業 (400 万ドル)

無錫積菱塑料有限公司【高機能樹脂性電気融着式継ぎ手】

(無錫市人民政府新区管理委員会の資料から作成。中国の簡体字は日本の漢字に直した。)

第二章 ハイテク産業の開発区

無錫は古くから「太湖の真珠」と称えられ、風光明媚の地として知られていたが、工業都市として急速な発展を遂げたのは、ここ四半世紀のことである。同市対外貿易経済合作局の資料によると、2004年の市内総生産(GDP)は2,350億ドル、前年比の成長率は17.4%に達した。また、輸出入総額は218.5億ドルで前年比51.9%増、うち輸出の総額は110.2億ドルで前年比50.5%となっており、その発展ぶりが数字で裏付けられている。

もともと、この地は江南地方の物資の集散地として繁栄していたが、19世紀の終わり近く、地元の有力者が近代的生糸工場を、そして20世紀に入ると、製粉、紡績、絹糸の工場を建て、近代的工業化の第一歩を踏み出した。現在も旧市街の運河沿いの地区に、古い工場が残っている。2005年10月に亡くなった元国家副主席の榮毅仁氏は、無錫出身の民族資本家の一人であった。

1970年代から1980年代にかけて、この伝統を受け継いで、無錫を含めた江蘇省の各地に、郷鎮企業が次々に誕生した。これは人民公社を基盤とし、農村部に続生した小企業である。無から有は生じない。無錫には、来たるべき時代の素地が、既に出来上がっていたのである。

1978年12月、共産党中央委員会の決定に基づき、中国は自力更生の鎖国状態を脱して、改革開

放に大きく方向転換した。これは国造りの「総設計師」という称号を捧げられた最高指導者・鄧小平の主導のもとで行われた。

まず1980年、経済特別区(特区)が4ヵ所に設けられて、英領(当時)の香港に隣接する広東省の深圳、珠海、汕頭、それに福建省の廈門が、外国資本と技術の導入に踏み切った。だが、これらの特区の所在は、政治の中心地・北京から遠く離れた南部に限定されていた。首都にはまだ守旧派の抵抗が残っていたからである。

今でこそ改革開放体制の象徴のような上海でさえ、第一次の選考から漏れた。しかし、1983年、上海など沿海部の14都市が開放され、翌々年の1985年には長江三角洲などが開放地区となった。その後、無錫は急速な発展を遂げる。

中国の工業開発は、中央、省、市の承認を必要とする。1992年11月、国務院(日本の内閣に相当)は、無錫に高度新技術産業開発区の建設を批准した(日本語では批准とは国家間の条約を確定する国会の手続きを意味するが、中国語では承認を意味する。国務院の批准とは、日本の閣議決定に当たる)。それ以後、国家級の開発区のほかに、市内各地に江蘇省人民政府の批准を得た省級の経済開発区、無錫市人民政府の批准した重点開発団地が続々と設置された。

同じ開発区(工業団地)でも、国家級と省・市級の違いは何か。国家級は大企業の立地に向けたもので、敷地の区分けが大きい。省や市級は中小

企業向けで、一区画の面積は、それほど大きくない。道路、電力、通信などの社会基盤（インフラストラクチャ）が整備されているのは、いずれも同じである。郷鎮企業は自然発生しただけに相互の連絡を欠いたが、各級開発区の設置は無秩序な乱開発の弊に陥ることを避けた。

かつての無錫が城壁と運河に囲まれていたことを覚えている住民は、年とともに減っている。城壁が撤去された跡地は道路になり、運河は一部の区域で昔の面影をとどめているものの、新しい水路が旧市街地を迂回して開通し、500トン級の船を通すようになった。市内の道路は何度も拡幅されたが、自動車の増加に追いつけない。

この十数年で無錫の中心部には高層建築が林立して、江南の由緒ある城市は近代的大都市に変貌した。改革開放政策による急速な工業化が結実したのである。

各級の開発区は既成市街地の外側に設けられ、進出企業には土地の取得、税金、原材料の輸入、製品の輸出などで、経済特区同様の優遇措置を保障されている。そこは大規模なニュータウンで、かつての農地に広い道路が縦横に走り、緑の植栽が工場用地を取り囲む。中層、高層取り混ぜて数十棟の集合住宅が立ち並び、新住民の生活に不自由なよう商店街や学校も整備され、管理サービス中心（サーヴィス・センター）が置かれている。

血は水より濃い。当初、無錫に進出したのは、やはり香港、シンガポールなどの華人系企業が多かった。西側資本主義諸国は、もしも中国が再び社会主義体制の強化に復帰するなら、進出企業が接収されるのではないかと懸念し、二の足を踏んだのである。しかし、その心配は杞憂だった。天は崩落しなかったし、改革開放の大方針に変わりは無かった。

過去20年間に、外資企業は九千社に迫り、契約上の投資額は337.4億ドル、実行額は163.4億ドルに達した。無錫市対外貿易経済合作局の資料によると、2004年だけで外資企業897社が認可され、契約上の投資額は前年比3割増の65.1億ドル、実行額は2割増の320.6億ドルとなっている。

第三章 「無錫旅情」の企業誘致

日本の1960年代は、高度経済成長の時代であった。当時の田中角栄首相が日本列島の改造を提唱したのに呼応して、地方自治体は工場誘致に熱心に取り組んだ。日本の経済発展は技術革新に支えられ、「鉄が鉄を呼ぶ」と言われたように、高度成長の牽引車・鉄鋼産業の新規投資は各産業に波及効果を及ぼし、次の投資を呼んだ。しかし、日本では外国技術が導入されても、外国資本の導入は無かった。もし外資に門戸を広く開放したら、日本産業は乗っ取られてしまうと懸念されたからである。

だが、中国は外資と技術の両方を導入するのに躊躇しない。プロレタリア文化大革命の最中、鄧小平・共産党総書記（当時）が「資本主義の道を歩む実権派」と批判されたのが、今では夢のようである。外国の助けを借りない自力更生は、技術鎖国の弊に陥ってしまった。

2002年から毎年、無錫市は日本で企業誘致説明会を開催している。市長を始め、経済合作局、招商局、投資促進中心（センター）、開発区管理委員会などの幹部や職員百数十人が大挙して日本を訪問し、東京、大阪、京都の各地でホテルの会場に業界関係者を招いた。

この説明会は官製行事の固い殻を破り、日本の古い流行歌に因んで「無錫旅情」と名付けられ、映像をふんだんに使って新興工業地の魅力を宣伝している。気候は温暖で、四季がはっきり分かれている。日本と同様に、桜の名所がある。外国人向けの住居、宿泊施設は完備、市の中心部は「小上海」と呼ばれ、中国の有名百貨店、外資系的大型ショッピング・センターがあり、日常生活に不自由はしない。外国人子弟向けの国際学校もあって、教育の心配はない。総合・専門病院も数多くあり、いざという場合、高度の医療を受けられる。優秀な人材が豊富で、管理・技術職の割合は全国平均の2倍。労働力は同じ江蘇省内で調達でき、その賃金も上海や蘇州に比べて安い……。実に結構尽くしである。



写真1 無錫中心部の遠望（手前は大運河）（無錫市の広報資料から）

2005年2月、筆者は東京で開催の説明会に出席した。この催しに無錫市がいかに力を入れているかは、共産党市委員会の楊衛沢・書記が自ら団長として訪日使節団を率いている事実からも窺えよう。中国の国家体制では、共産党の組織と行政機構は表裏一体の関係にあり、無錫市の最高責任者は市長でなくて、党の市委員会書記である（市長は副書記が務めている）。

以下、2005年9月、筆者が3市を訪問した際の見聞をまとめてみよう。

1. 無錫

20世紀の最後の10年間に、中国は「世界の工場」といわれるようになった。しかし、国際水準から見て格安の賃金を利用して、労働集約的産業が伸びたに過ぎなかった。つまり、外国から輸入された原材料や部品を加工・組み立てし、それを再輸出した。中国ならではの技術を創造・活用するまでには至らなかったのである。だが、そのような見方は、無錫に関する限り、もはや偏見というべきだろう。

2004年7月、無錫市は「製造業発展指導目録」

を布告し、進出企業の業種内容を規制した。企業誘致は何でもよいというのではない。人海戦術の労働集約型、公害排出の迷惑産業は、お断りだ。その目録はさまざまな業種を列挙し、「発展奨励」「発展許可」「発展禁止」に3分類している。

発展奨励の分野は、まず電子情報・ソフトウェア業種で、液晶谷関連のデジタル・オーディオ、ヴィジュアル電子製品、カラー大型スクリーンや高精度ディスプレイなど。次にメカトロニクス・自動車関連業種で、電子制御の燃料噴射や制動システム、排気ガス浄化装置など。さらに高級紡績・服飾業種では、特殊天然繊維、人造繊維の高付加価値製品や環境保護型、エコロジー型紡織品、ブランド高級服飾製造など。新素材業種は、新型包装材料、高品質防水シール、高性能複合素材、特殊セラミック、無機ナノ素材など。バイオ医薬業種では、高付加価値医薬製品、自主知的財産権を有する新薬の開発製造、新型の抗がん、抗感染、心臓血管薬の生産、遺伝子工学ワクチンの生産、漢方調合薬新製品の開発、バイオテクノロジー薬品の生産など、時代の最先端を行く製品が盛り沢山である。



写真2 長江に架かる大吊橋と貨物船（河岸ではゴルフ場の建設が進む）（撮影=大石悠二）

奨励の対極にある禁止業種は、除塵やガス回収装置がない高炉、転炉、電炉を保有する鉄鋼業。電力浪費の旧式冷蔵庫、冷凍庫、洗濯機、空気調整装置（エアコン）などの家電製品製造。このほか禁止項目はまだまだ続くが、要するに公害排出、陳腐、旧式、時代遅れの産業は、無錫に立ち入り無用を申し渡されている。

2. 江 陰

無錫市の渋滞する市街地を通り抜け、ようやく郊外に出る。そこは喧騒とは無縁の別天地で、田園を貫いて高速道路が延びる。江陰は無錫の中心部からは約40 km 離れ、長江に沿って新都市を建設中だ。工業園区のおそばで、中層の集合住宅が建築中だった。耕地や住居を工場や道路用地に提供した農民のための補償措置である。

排水量1万トン以上の貨物船が、長江大橋の下をくぐり抜ける。河川敷ではゴルフ場の建設が進んでいた。外国人（とりわけ日本人）の居住者が増加すると、ゴルフ場は必要な社会基盤（インフラ）である。

江陰市の利点は、河岸の深水線が46 kmも伸びていることだ。その自然条件を活用して、港湾物流の発展を目指す。市内で生産された製品は、すぐに河港で船積みでき、そのまま日本や欧米諸国の海港まで運ばれる。

1991年、ここは省級の経済開発区に指定されたが、国家級と同格の扱いを受け、独自の審査と

許認可権限を持っている。総投資額が300万ドル以下の事業計画は、開発区の管理委員会で批准できる。

江陰経済開発区の招商局と党政弁公室が刊行した小冊子には、日本語で「すべては投資者のためにすぐやります」と書いてある。筆者は思わずマツモトキヨシを連想して、微笑を禁じ得なかった。この日本の代表的な医薬品・化粧品・日用品販売の連鎖店を長江のほとりで思い浮かべたのは、その創業者・松本清氏（故人）が、千葉県松戸市長を務めた時、市役所内に市民の要望に即応する「すぐやる課」を設置して話題となったからである。

それと同じように、経済開発区管理委員会の服務中心（サービス・センター）では、進出事業の諸手続きを一人の専門担当者が無料で最後まで完了させる。また、開発区内の輸出加工区では、通関業務が24時間体制で、申告—審査—検査の過程が一回だけで済む。

江陰市は無錫旅情の誘致活動に参加しているが、2005年9月、別な機会を設けて日本に使節団を送り込み、国際経済交流会を開催した。朱民陽・共産党江陰市委員会書記は挨拶の中で、1989年に日本企業が初進出してからの15年間に、136社が4億ドルを投資したと述べている。その中には、丸紅、三菱商事、住友商事、三井物産の総合商社、新日本製鉄、JFEの鉄鋼会社、日本毛織などの大手企業が名前を連ねている。この機会に江陰市は、同じ工業港湾都市の川崎市と誼を結び、協力協定を締結した。

3. 宜 興

太湖の周囲を巡り、高速道路が湾曲している。上海と南京を結び、太湖の東岸を通る路線が無錫で枝別れして、上海から杭州経由で南京を結ぶ別の路線につながっている。その両側には田園地帯が広がり、昔ながらの村落（郷）がある。しかし、道路際の農家のくすんだ外壁を塗りつぶして、色鮮やかな広告が描かれている。時代の変化は、ここにまで及んでいた。

無錫の中心から宜興までは約70 km、同じ「市内」でもかなり遠い。宜興の市街地に入ると、

巨大な門が広い道路を跨いでいる。その梁には「中国宜興環保科技工業園」と大書してある。環保とは、環境保護、あるいは保全の略語である。科技とは科学技術である。また、柱には「大気天空充滿潔淨城市」と書いてあり、表意文字の強みで、日本人に意味は十分理解できる。

この工業園は太湖とは別の淡水湖・团湖に面し、1992年に国务院の批准を受けた。中国で環境保全に取り組む国家級工業団地は、ここ宜興だけである。改革開放政策により、中国は驚異的な高度経済成長を成し遂げた半面、年ごとに環境破壊が深刻化して、その対策が最大の課題になっている。そこで見方を変えるならば、環境ビジネスは将来有望な成長産業である。中国は世界最大の環境産業市場となり得る。

実際、中国政府は第十次5ヶ年計画（2001～2005年）で、環境保全事業に7,000億元（9兆1,000億円）を投入した。この数字は第九次5ヶ年計画の約2倍に当たる。前世紀の最後の十年間、宜興には環境関連の企業が集積し、その数は千社を超えた。中国の環境企業優良百社に、宜興から二十数社が名前を連ねている。

田園が都市化するに伴い、污水处理の問題は避けて通れない。日本から最初に尿管浄化槽の技術が導入されたのは、ここ宜興の地であった。大掛かりな下水道の建設を待つ前に、この身近な環境保全技術は高く評価されている。

他の工業団地が公害源になりかねないのとは対照的に、ここは環境対策の百貨店、いや専門店街である。污水处理装置や薬剤、排ガス脱硫・脱硝の大気汚染関連の装置、ごみ処理などの設備や機器製造の企業が集積している。それには韓国企業が多く、公害対策では先進国のはずの日本は影が薄い。

しかし、招商局の資料は、「日本環境企業が中国で最も成功した著名な事例」として、東濱工業を取り上げている。同社はブロウワー（送風機装置）のメーカーで、1995年と2000年に宜興に工場を建設し、日本の先端技術と現地生産による原価削減の利点を融合させ、この分野で中国における最大手となった。



写真3 ハイテク起業センター前の広報看板
環境保全を呼びかけている

(撮影=大石悠二)

結 語

次の5ヶ年計画は、過去同様に8%台の高い成長率を想定している、北京オリンピックや上海万博関連の特需は、その数字を押し上げてきたが、やがて消滅する。その時にこそ、地道な製造業が、底力を発揮するだろう。

2005年、日中関係が緊張し、上海で反日デモが荒れた際、無錫は平穏だった。気の早い一部のジャーナリズムは、中国の次はインドだと囃し立てている。確かに、この南アジアの巨象は、近年、情報技術（IT）産業を中核に台頭してきた。しかし、地理的に近く、文化的にも類似性の強い中国が、急にインドに取って代わられるとは考えられない。

日系企業が集積しているのは、長江三角洲にとどまらない。広い大陸の各地で、主要都市が日本で説明会を開催し、企業誘致を強く働きかけてい

る。無錫のライヴァルは他にも多く、中国内の競争が今後も繰り広げられる。このようにして、日本と中国の経済関係が、一層強化されるだろう。

参考文献

定期刊行物

(新聞) 朝日新聞, 日本経済新聞, 日中新聞, 人民日報

(雑誌) ダイヤモンド, 東洋経済新報, 日経ビジネス, 人民中国, Suzhou-Wuxi Walker (蘇州無商錫ウォーカー)

調査報告書

みずほ総合研究所編『みずほレポート』(2004年)

単行本 (2005年6月以降に刊行された書物に限る)
家近亮子, 唐亮, 松田康博編著『5分野から読み解く現代中国 — 歴史・政治・経済・社会・外交 —』(晃洋書房, 京都, 2005年)

南亮進, 牧野文夫編『中国経済入門 [第2版] — 世界の工場から世界の市場へ —』(日本評論社, 東京, 2005年)

中国研究所編『中国年鑑』(創土社, 東京, 2005年)

この調査に当たり、東京では無錫市人民政府駐日本商務代表処の蘇健・商務代表、現地では無錫、江陰、宜興の人民政府、ならびに関連諸機関の諸氏から懇切な説明を受けた。ここに謝意を表したい。